

営農だより 第8号

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

発行 2022(令和4)年6月20日
北駿産米改良推進協議会
JA 富士伊豆御殿場営農経済センター
TEL : 0550-84-4820

- 目標**
- ①「米ぬか入り肥料」の施用により、循環型農業の実践
 - ②粒張が良く、食味値 80 点以上の良食味米

～適正な水管理（深水・中干し）を行いましょ～

6月前半は涼しい日が続き、東海では6月14日ようやく梅雨入りとなりました。平年と比べ8日程度遅い梅雨入りです。今年はラニーニャ現象の影響により雨量が多くなり梅雨入り早々局地的な大雨が見込まれ、向こう1カ月は平年と比べ気温は高く推移し、降水量・日照時間はこの時期の平年並みと予想されます。こまめに天気予報を確認しながら作業のタイミングをはかりましょ。

6月17日に定点調査を実施した結果、現在の生育状況は平均葉齢8.8葉で出穂42～45日前となっており、昨年と同程度の生育ステージとなっています。管内では田植え後の低温による植え傷みは回復し順調に生育していますが、5月末の高温により茎数が過剰になっているほ場、6月の低温により茎数の増加が緩慢になっているほ場が散見されます。深水・中干しの終了のタイミングは葉齢9.5～10葉ですが、必要茎数を確保し、茎数が取れすぎてしまったほ場ではしっかりと中干しを行い、その後間断灌水を行いましょ。今後の水管理は根を健全に保つことで食味に係る重要な管理となります。

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目	平均気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月 計	12.8	11.5	1.3	153.9	161.3	95.4	383.5	252.6	151.8
5月 計	15.9	15.9	0	168.1	158.6	106.0	270.0	243.7	110.8
6月1～5日	18.5	17.9	0.6	33.3	23.1	144.2	1.5	32.3	4.6
6～10日	16.3	18.5	▲2.2	11.7	20.2	57.9	52.0	38.2	136.1
11～15日	16.6	18.9	▲2.3	7.7	17.5	44.0	28.5	50.1	56.9
6月前半 計	17.1	18.4	▲1.3	52.7	60.8	86.7	82.0	120.6	68.0

定点調査 生育状況

株間平均 19.3 cm

6月17日(金)現在

場所	標高 (m)	植付本数	茎数 (本)	茎数/m ²	草丈 (cm)	葉齢	葉色	田植え日
神山(町屋)	295	3.5	23.7	429	40.2	8.8	4.9	5/3
吉久保	370	4.1	26.1	397	40.5	9.3	5.2	5/1
大堰	400	3.6	17.9	276	35.2	8.5	5.0	5/3
用沢	460	3.3	20.2	356	39.6	9.0	4.3	5/4
仁杉(刈り-周辺)	500	4.4	22.0	396	31.5	8.5	4.9	5/6
中畑	550	3.2	13.5	237	40.6	8.6	5.1	5/2
上柴怒田	610	2.6	10.3	203	34.8	8.7	4.0	5/6
平均		3.5	19.1	327.7	37.5	8.8	4.8	

※茎数と株間から算出したm²当たりの目標茎数に対する進捗状況

◎Point!! ～葉齢から出穂期を予測しよう(13葉稲の場合)～

9葉:出穂40日前 10葉:出穂32日前 11葉:出穂24日前 12葉:出穂16日前

m²当たりの茎数を計算しましょ!! ～茎数(本)/m²が分かると今後の管理に役立ちます!!

[例] 株間平均 18 cm 畝間平均 30 cm 茎数平均 14 本 (すべて10株の平均です)

$$\rightarrow 1(\text{固定}) \div 0.18 \div 0.3 \times 14 = 259.3 \text{ 本/m}^2$$

【水管理】

足跡に水が残る程度がいいな～

間断灌水(繰り返し行います)

深水 または 中干し

中干し終了

水がなくなるまで待つ

水がひいたら入水

深水、または中干しによる水管理は出来ていますか？

まだ深水・中干しを行っていないほ場は茎数を数えてみましょ。20本以上茎数が出来ていたらしっかりと中干しを行いましょ。中干しが完了したら間断灌水や飽水管理を行い、根に酸素と水を供給しましょ。



8.5葉期

◎中干しの効果◎
無効分げつを抑え、収穫時の地体力をつける。またガスを抜き、土中に酸素を送ることによって還元化を抑え、有害物質の生成を防いで根を健全にする。強く干しすぎると根の切断をまねくなどの弊害もある。

②は穂をつけず、生育過程で溶け、
③以降の茎が穂をつける。
以降の孫分げつを抑える為に深水・中干しを行う。

◆中干し後の水管理◆

【方法1】 間断灌水

- ① さっと流し、水をためない
- ② ヒビにならない程度（3～5日に1回入水）

【方法2】 溝切り機により飽水管理

- ① 中干し後小ヒビが入る頃から溝切りを行う
- ② 溝を切ったところのみに水を入れる

溝切り機による溝作成方法

溝切り機で外周と5～10条ごとの溝を切る。
中干し後小ヒビが入る頃から水を入れながら溝を切ると、溝が崩れにくく作業しやすい。
（雨が降り多量の水はけが悪い場合はおおむね5日程度おいてから）
入水口は溝とつなげるが、出口はつなげない。（水をためるため）
ただし田面と同じ高さに堰板を合わせる。

含水率は80%であれば大丈夫です!

5～10条ごとに溝を切る。

水もち良：条数狭く。
水もち悪：条数広く。

溝にだけ水を入れる。根に酸素と水が供給される。
田面に水が乗らないので乾きやすい。



乗用式水田溝切機



溝切り後の乾水管理

- ①草丈伸長抑制による倒伏軽減
- ②出穂後遅くまで根に水・酸素を常時供給できるので、登熟が良くなる
(下葉が枯れにくい)
- ③溝以外は乾き、コンバイン作業も容易になる

【雑草・病害対策】

ヒエやクログワイ等多年性雑草が残ってしまったら
⇒クリンチャーバス ME 液剤

薬剤 1,000ml を 70～100ℓ に希釈し、落水状態にして散布後晴天が続く日を選んで散布しましょう。(ただし、高温時は避ける。)
ノビエ 5葉期、収穫 50 日前まで。

白葉枯れ病、が発生する場合は
⇒オリブライト 1キログラム粒剤、
オリゼメート 1キログラム粒剤、ルーチン粒剤

白葉枯れ病



※昨年発生した圃場は 6 月中旬～下旬に必ず散布しましょう。治療薬はありません。

薬剤	使用適期	使用量(10a当)	対象病害
オリブライト 1キログラム粒剤	葉いもち初発 10 日前まで	1kg	いもち病・白葉枯病・紋枯れ
オリゼメート 1キログラム粒剤	出穂 28 日～21 日前 (収穫 14 日前まで)	1kg	いもち病・白葉枯病・穂枯れ(こま葉枯病)
ルーチン粒剤	出穂 28～21 日前 (収穫 30 日前まで)	1kg	いもち病・白葉枯病・穂枯れ(こま葉枯病)

※湛水状態(水深 3～5 cm) で均一に散布して下さい。

【峰の雪もち穂肥施用】 【マップ 456】

穂肥え適期	穂肥え回数	出穂前日数	幼穂長
	1 回目	28 日前	1 mm
	2 回目	18 日前	10 mm

幼穂を確認してください

※標高によって施肥日が異なります。

標準的な穂肥施用時期及び施用量(参考)	肥料名	1 回目	2 回目	平均出穂期
	マップ 456	6/25 20kg/10a	7/4 15kg/10 a	7/23

～トビロウカについて～

一昨年、当地区管内でも被害をもたらしたトビロウカが、今年もすでに北陸山陰地方で確認されました。今後も国内、また県西部の発生状況を継続的に調査し、生産者へ周知していきます。ほ場で右図のような虫が発見された場合は御殿場地区営農経済センターまでご連絡ください。

～ドリフト注意～

毎年、畦畔や耕作放棄地等への農薬散布によるドリフト被害が発生しています。「いつも行っていること」であっても、風のない日を選ぶ、ドリフト低減ノズルを使用する、使用前に散布機等の点検を行うなど、細心の注意を払いましょう。